

定期上映会 戦傷病者の証言

当館では、戦場での負傷等により多くの苦勞を抱えながら生きてきた戦傷病者とそのご家族の証言を映像で記録し、その数は開館から今日にまで約200本になりました。

今回の上映会では、常設展示室に展示している資料の寄贈者(戦傷病者)のうち、4名の証言映像を上映します。

上映場所:しょうけい館2階 シアター

上映期間:2024年9月3日(火)~12月1日(日)

上映時間:10:00~17:00

上映休止:9月8日(日)/10月13日(日)/11月10日(日)
いずれも13:00~14:00

二人で一人、傷痍軍人の妻として

毎時00分
より上映

昭和14年入営、満洲へ。8月、ノモンハンで部隊内の決死隊に志願、敵軍戦車を爆破し、その破片を全身に浴びて視力も失う。二度目の手術で左眼の視力やや回復。17年、結婚。妻は夫の目となり手足となる覚悟で結婚。いつでも生計を支えられるよう結婚当初から洋裁を学んだ。いつ失明するか不安な毎日、妻の支えで生きて来られたと語る夫。

◆展示場所 ともにのりこえて

受傷が変えた人生~苦悩、そして挑戦~

毎時10分
より上映

昭和19年12月、徴兵の1年繰り上げで陸軍に入営。20年7月、中国通州の飛行場で敵機による機銃掃射を右腕に受ける。内地還送となり、療養の後、帰郷。亡き兄に代わり家を継ぎ、農業に努めるもきき腕が使えないため、田植え、稲刈りなど、苦勞は絶えなかった。

◆展示場所 傷病とともに生きる

療養所は大きな家族~支えあい、助けあい~

毎時30分
より上映

昭和16年10月、中国河南省にて作戦従事中、銃撃被弾して城壁より落下し下半身麻痺となる。18年6月、傷痍軍人箱根療養所に入所。以来、療養生活を送る。療養所は支えあい助けあう大きな家族だったと、夫人はしみじみ述懐。

◆展示場所 ともにのりこえて

軍隊経験 その光と影

毎時40分
より上映

昭和15年12月、陸軍に入営。16年5月、河南省で敵手榴弾により顔面に負傷。搬送先の瀋陽の陸軍病院で国防婦人会の慰問を受けた時、自分の顔面の負傷を見て驚き立ち去る姿に衝撃を受けた。各地の陸軍病院で加療後、17年6月に退院・帰郷し、会社へ復帰。軍隊生活は人生に新たな一面を切り開いたが、また一方で大きな傷痕も残した。

◆展示場所 受傷

◆上映時間以外でも、情報検索機にてご覧いただけます。◆団体プログラムにより変更となる場合があります。